二さいのぼくへ

御津南部小・1　やまむろ　とうしろう

カエルがなくとおかあさんが、
「とうくんが二さいのころ、カエルにあいたいといって、おさんぽをしたことがあったよ。田んぼにもはたけにもいなくて、小学校のなんぶ川でやっと見つかったんだよ。そしたら、とうくん『エンエンしてない』って、ざんねんがっていたよ。おとなが、カエルがないているっていうのを、かなしくてないているとおもったんだね。」と、はなしてくれます。なんだか、かわいいけど、ちょっとはずかしいな。

二さいのぼくへ
「ワレワレはアマガエル」をよんで、びっくりしたことをおしえてあげるね。
まず、カエルがなくのはかなしいからじゃないよ。とうみんからさめたしょうこで、のどにあるなきぶくろをふくらませて、大きなこえでないているんだって。かっこいいよね。
それから、びっくりしたことは、ぼくとのからだのちがいだよ。カエルはたまごでうまれて、おたまじゃくしになって、手や足がはえるんだって。ぼくは、おかあさんのおなかの中で、手や足があったよ。このまえ、ぼくがおなかの中にいたときの、4Dどうがを見たら、手がもぞもぞしていたよ。
一ばんおどろいたのは、おかあさんがたまごをうむのは、田んぼをたがやして、水が入る六月くらいなんだって。そこから、二日くらいでうまれちゃうみたいだよ。ぼくみたいに、一月うまれのカエルっていないんだね。人げんみたいに、まい月だれかのおたんじょう日じゃないんだよ。

二さいのぼくへ
カエルって小さいけど、がんばっているよね。六さいのぼくも小さいけど、がんばっているよ。でも、まだカエルがつかめないのは、ないしょだよ。